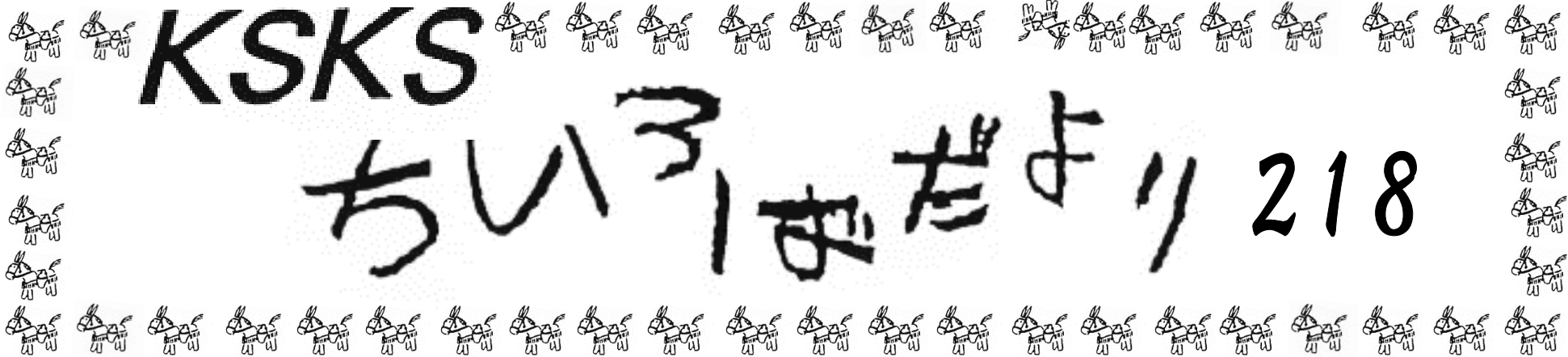




かい ほう
「解 放」

かいりじちょう おおさわ せいいち
ちいろば会理事長 大澤 星一

二〇〇〇年十二月十二日 第三種郵便承認 毎月 (二・三・四・五・六・七・八の日) 発行

しんやくせいしょ ふくいんしょ きせき ものがたり たくさんえが あらし しず みず うえ ある
新約聖書の福音書には、イエスの奇跡の物語が沢山描かれている。嵐を鎮めたり、水の上を歩いたりする

しぜん ちから たい おこな きせき な ひと い かけ びょうき しょう いや ものがたり
自然の力に対して行った奇跡や、亡くなった人を生き返らせたり、病気や障がい癒したりする物語である。ど

ごうりてき せつめい かのう きせき せいしょ
れも合理的な説明をつけようとすれば可能かもしれないが、そうしてしまうと、奇跡ではなくなってしまう。まあ聖書

か きせき
に書いてあるんだから、そうだったんだろうな、ぐらいの気持ちで読むのが良いのかもしれない。しかし、奇跡が

ほんとう ものがたり のこ してん
本当にあったかどうかということよりも、どちらにせよ、なぜ、そのような物語が残されているのか、という視点で

きせき ものがたり よ だいじ おも
奇跡の物語を読むことはとても大事なことだと思う。

ふくいんしょ なが あいだじゅうぶ わずら おとこ いや ものがたり じぶん まち こ
マルコによる福音書には、長い間 中風を患っていた男を癒す物語がある。イエスが自分たちの町に来られ

き よんにん おとこ じゅうぶ おとこ なお つ き はなし たくさん い み
たと聞いて、四人の男がその中風の男を治してもらおうとイエスのもとに連れて来た話だ。沢山の意味がこの

きせき ものがたり み いだ で き ひと と あ おとこ いや とき い お あ
奇跡物語に見出すことが出来るが、その一つを取り上げると、イエスがこの男を癒す時に言った「起き上がり、

どこ かつ いえ かけ ことば い み
床を担いで家に帰りなさい」という言葉の意味だ。

おとこ じゅうぶ なが あいだ ねどこ ね おとこ ねどこ じぶん せかい
この男は、中風だったので長い間、寝床に寝たきりだった。ということは、この男にとって寝床は自分の世界

はな しば い おとこ たい お どこ
であり、そこから離れられずにいた。つまりは縛られていたと言える。そうした男に対する「起きて、床をかついで」

ことば しば じょうたい かいほう い み かいほう
というイエスの言葉は、縛られていた状態からの解放を意味しているといえるだろう。そして、解放されただけで

かだい かつ じゅう ある ふう と かいほう くだ
はなく、その課題さえも担いで、自由に歩けるようになった。こんな風にイエスは捕らわれから解放して下さり、

じゅう くだ そんざい
自由にして下さった存在なのだ。

かいほう おとこ わたし なに しば い み と
イエスによって解放されたこの男のように、私たちも何かに縛られてはいないだろうか。リアルな意味での捕ら

じょうしき でんとう かんが かつ せいしんてき い み わたし しば
われているということはないかもしれない。でも常識や伝統、考え方など精神的な意味で私たちが縛られてい

わたし かいほう おも じゅう おも
るかもしれない。そんな私たちをもイエスは解放させてくださるのだと思う。とらわれることなく、いつも自由な思い

できごと お あ とも かいほう あゆ おも
でいろいろな出来事と向き合っていきたい。そんなイエスと共に、あらゆる解放のために歩んでいきたいと思う。

しゅうかつ おも
就活について思うこと・・・



かい しゅにん よねだ まもる
ちいろば会 主任 米田 守

わたしが初めて就職しようとしていた‘90年代はちょうどバブルが崩壊し日本経済が混乱に陥った時代で就職するのも難しく「就職氷河期」なんて言葉がでてくるぐらいでした。幸いにも1次→2次→3次と面接や試験をなんとか・・・偶然にも通過して内定をいただいたときはとてもうれしかったことをおぼえています。働きはじめてからも大手企業までもが次々と倒産するなか銀行の営業マンとして駆け出しの自分に取引先から返ってくる言葉といえば「君のころは大丈夫か？」というような言葉ばかりでした。ちいろば園に就く前に社会人として踏み出した頃の思い出です。

毎年ちいろば園にも就活で学生がきます。そうした方々と面談していても20年ほど前と比べて時代の変化を感じることも多いです。最近では〇〇ナビ、〇〇マートなど就職サイトを通して来られる方がほとんどでFacebookやTwitterなどのSNSを使った就活はあたりまえになっているようです。昔のようにアナログに就職先を調べ、人事課に電話をして、直接出向き挨拶をしてからスタート、その後何度か就職が決まるまで足を運ぶようなことは少ないそうです。

新社会人としての基本的なマナーは挨拶、みだしなみ、言葉遣い、時間厳守など言われますが、就活でこれらる学生の第一印象として感じるのが挨拶です。明るく元気な挨拶をされるとこちらが気がひきしまり、気持ちがよいものです。それまで自由に過ごしていた学生にとって、好き嫌いで人を区別してきた人も少なからずいると思います。社会人になればそのような考えは一切認められない厳しい世界で社会人にとって挨拶は基本のマナーです。そして、挨拶はコミュニケーションの入り口だからです。学生のときは与えられた課題をこなしていれば、ある程度勉強さえできれば、先生や親がフォローもしてくれたと思います。しかし、社会人になれば人間関係は複雑になりいろいろな人たちとやり取りしなければなりません。相手の表情をよみとったり、気持ちを考えたり、その場の空気をよみとったり、周囲にあわせたりして行動するなど高いコミュニケーション能力が求められます。

就活している人に「社会人とはなんだ！こうだ！」なんて偉そうに言うつもりはありません。ただちいろば会で働く職員にとって利用者にしっかりと声をかけてコミュニケーションをとったり、相手の表情をよみとったり、相手の気持ちを考えたり、は対人支援において必ず必要で重要なことです。私自身も相手のことを理解し、自分とも向き合いながらつづけていくことができればと思っています。

み ごうりてき はいりよ
見つけた！！合理的配慮！！



グループホーム たかはし さ や か
高橋 沙耶加

もう20年も前の私が学生だった頃、同級生に足の不自由な車イスの女の子がいました。

クラスは一緒ではなかったのですが入学して数日後、その子と一緒にお母さんが私のクラスにも話をしに来られました。お母さんからその子が産まれてから今までの話をされた後、「この子は足が不自由で車イスに乗っていますがそれ以外はみなさんと何もかわりません、自分の事は自分で何でもできます、階段も自分で這って一段一段上って下ります。だからみなさんの助けは必要ないです。でももし彼女が本当に困って助けを求めている時は助けてあげてください」という言葉を今でも覚えています。

実際、彼女が階段を這って上がる姿を横目を通り過ぎることもよくありましたが、落とした教科書を拾ってあげる子、「大丈夫か？がんばれ！」と声をかける子、教室移動に時間がない時、急いで車イスを押してあげる子もよく目にしました。

お母さんのお話から私たち同級生は子供なりに理解し、自然と合理的配慮へとつながるサポートができていたのではないかと思います。

学校生活だけでなく修学旅行の際も例年と違う事がありました。旅行先は東京だったのですが先輩から「なんで今年は飛行機、新幹線じゃなくてバスなん？」と言われ、その当時は深く考えませんでした。学校から目的地まですべてバス移動でした。それにバリアフリーのある施設やホテル、今思えばそれがよかったのかどうかはわかりませんが彼女の負担を軽減させる学校側の合理的配慮だったのだと思います。

今も障害をもつ人が困っている姿をよく目にします。先日も地下街を友人と歩いていると遠くの方で車イスの年配の男性の方が通る人に声をかけていますがみんな見て見ぬふり。男性側を歩いていた友人も通りすぎました。私は男性に声をかけようとした時、「ねえちゃん、ちょっと助けてくれへんか？ここ自分の力だけでは上られへんのや」と、そこは急なスロープになっていました。私は車イスを押し男性と世間話をしながら駅まで送りました。その後、友人に「なぜ、手伝ってあげなかったの？」と聞くと友人は「何か言ってる変な人やと思った」と言われがっかりしました。子供が困っていれば声をかけ、お年寄りが困っていれば手を差し伸べるように、障害者だから見て見ぬふりや優しくするのはなく、人として困っている人がいれば助けてあげよう、手をかしてあげようという多くの人の優しさや思いやりが少しでもあれば自然と合理的配慮へつながる社会になるのではないかと日々、感じています。

ブルーベリー狩り・ブルーベリーオーナー制の報告

ちいろば園 えん たつ み ひろ き
辰己浩規

今年も、ちいろば園のブルーベリー狩りへたくさんの方に来ていただき、無事終了する事ができました(大人40人 子供27人 合計67人)。ご来園して下さったみなさま、暑い中ほんとうにありがとうございました。初めてのお客様も多かったのですがリピーターの方も多く、『暑い中、寒い中で一生懸命ブルーベリーを育てた甲斐があったなあ』とみんな感謝の気持ちでいっぱいでした。アンケートの中には『利用者の方との会話がもしろかった』という感想もあり、とてもうれしく思いました。普段、地域の方と接する機会が少ない中でこのような機会がある事はとても良い事だと改めて思いました。

また、ブルーベリーオーナー制の方も8月末をもって無事終了する事ができました。今年は5組の方がオーナーになりました。連日の暑さにも負けずみなさん熱心に収穫してくださりありがとうございました。昨年もそうだったのですが、オーナーの方はみなさん良い木を選んでいただき毎年『実が大きくて甘いものをたくさん収穫できた』と喜んでいただけました。オーナーのみなさま本当にお疲れ様でした。

ブルーベリー狩りもオーナー制もまた次年度開催する予定です。詳細が決まればちいろばだよりでご報告させていただきます。みなさまとちいろば園のブルーベリー畑でお会いできるのを楽しみにしています。



ちいろば園メンバー

軽作業1階部門ではおかしの梱包作業やちいろば園の庭の草引きなどの環境整備の仕事をしています。そして月

に1回、部門内でレクリエーションを行います。今年の夏はみんなでクレープづくりをしました。クレープの具材を

皆で話し合い、買い物に行って生地も自分たちで作りました。出来上がったクレープは温かい生地と冷たいアイ

スクリームの相性が抜群でした！

月1回のレクリエーションは普段の作業の原動力だと感じています。



ちいろば会職員リレー エッセー



「^{しごと}仕事で^{かん}やりがいを感じる^{こと}事」

^{えん}ちいろば園 ^{せいかつしえんいん}生活支援員 ^{にしむら か ほ こ}西村可歩子

^{ことし}今年の4月^{がつ}から、^{えん}ちいろば園^{きんむ}で勤務^{いただ}させて頂いております。

^{にゆうしょく}入職^{はんとし す}してから半年^{いま おお}が過ぎようとしている今、^{りようしゃ かた}多くの利用者^{せんぱいしょくいん}の方や先輩職員^{いただ}にたくさんのアドバイスを頂いて、^{ひ び}やっと日々の業務^{ぎょうむ おぼ}を覚える事ができ、^{こと}利用者^{りようしゃ かた}の方と関わり^{かか}が日^ひに日^ひに深^{ふか}くなっていくことで、^{すこ}少しずつちいろば園^{えん}のメンバー^{いちいん}の一員^{ちか}に近づけているのではないかと感じられるようになってきました。^{かん}利用者^{りようしゃ かた}の方との関わり^{かか}が深くなることで、^{ふか}毎日^{まいにちあら}新たな疑問^{ぎもん}と発見^{はっけん}が生まれ、^う学ぶ^{まな}ことの方が多く^{ほう おお}「仕事^{しごと}でのやりがい」を感じられるところまで^{いた}至^{こんかい}っていませんが、今回^かリレーエッセイを書かせていただきます。

^{えん}ちいろば園^{はたら}で働^{ひとりひとり}きはじめ、一人一人^{ひと}の人と真^{しんけん}剣^むに向き合う事は精神的にも肉体的にも大^あ変^{こと}で難^{せいしんてき}しい事^{にくたいてき}なのだと感じる反面^{たいへん}、利用者^{むずか}の方と些^{こと}細^{かん}な事でも「思^{かん}い」を共^{はんめん}有^{りようしゃ}できれば辛^{かた}いことを忘^{ささい}れるぐらい嬉^{こと}しいと感じるこ^{おも}とが出来^{きょうゆう}、これが「やりがい」に繋^{つら}がるのではないかと感じました。^{わす}

^{でき}利用者^{つな}の方との関わり^{かん}を持ち始めてから、一人一人の個性や価値観を理解し向き合うには、^{りようしゃ かた}想像力^{かか}とその人^もに合^{はじ}った物差し^{ひとりひとり}、一人一人^{ひとりひとり}に興^{こせい}味^{かちかん}を持ち続けるということが必要^{りかい}なのだと考^むえるようになりました。^あ私^{そうぞうりよく}が持^{ひと}っている^あ常識^{ものさ}や価値観^{ひとり}の考^{ひとり}え方^{きょうみ}が優先^もされてしまえば、利用者^{つづ}の「思^{ひつよう}い」に寄^{かんが}り添^{わたし}うことは出来^もず、自分^{じょうしき}の考^{かちかん}えが先^{かんが}走^{かた}れ^{ゆうせん}ば利用者^{りようしゃ}の尊^{おも}厳^よを見^{でき}失^{じぶん}う事^{かんが}にも繋^{さきばし}がるので、気^きを付^つける必要^{ひつよう}があると利用者^{りようしゃ}の方との日々^{かた}の関わり^{ひ び}を通して学^{とお}び^{まな}び^{かん}を感じています。

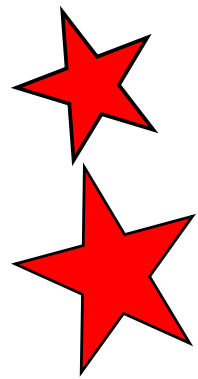
^{さいきん}また最近^{りようしゃ}、利用者^{かた}の方との関わり^{かか}の中で、同^{なか}じ部^{おな}門^{ぶもん}以外^{いがい}の利用者^{りようしゃ}からも名^{なまえ}前^よを呼^{こと}んでもら^ふえる事^{いま}が増^{こと}え、今^ふまで^{いま}私^{わたし}から話^{はな}しかけないと会^{かいわ}話^{はじ}が始^{りようしゃ}まらなかった利用者^{かた}の方からも自^{みづか}ら話^{はなし}掛^かけてもら^{うれ}えるようになり、嬉^{こと}しい事が^{ひ び}日々^ふ増えてい^ふます。

^{わたし}私^{けいけん}は、経^{ちしき}験^{とぼ}や知^{まな}識^{おお}が乏^{まいにち}しく、学^{おく}びの多^{りようしゃ}い毎^{かた}日^{おも}を送^{きょうゆう}っており、利用者^{むずか}の方と「思^{りようしゃ}い」を共^{おも}有^{すこ}することは難^{ちか}しいですが、利用者^{ひ び}の「思^{かか}い」に少^{たいせつ}しでも近^{りようしゃ}づけるよう、日々^{おも}の関わり^よを大^よ切^そにしてい^そき、利用者^{しえん}の「思^{でき}い」に寄^{がんば}り添^{おも}った支^{しえん}援^{でき}が出来^{がんば}るよう頑^{おも}張^{おも}っていこうと思^{おも}います。

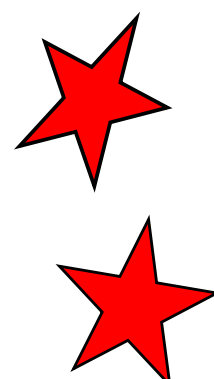
つぎ
次は、ちいろば園の石橋さんにバトンを渡したいと思います。

ねが
よろしく願^{ねが}います。

じかい
次回からのテーマは「理想の職員像とは？」です。



しゃしん とも しょうかい 写真で友だち紹介



このページでは、利用者の皆さんに、お友だちをひとり選んで写真を撮ってもらい紹介してもらいます。紹介をされた人には、次号であらたなお友だちを紹介してもらうという数珠つなぎのコーナーです。お友だちを紹介してくれる人には3つの質問をお願いします。

《 1、どうしてその人を選びましたか？ 2、どういう所が気になりますか？ 3、その人の好きなことは？ 》

しょくひんせい かぶもん よこやま ぶんご さん 食品製菓部門 横山 文吾 さん

はら たけし しょうかい
原 武史 さんを紹介します！

- 1.グループホームで一緒だから。
- 2.いたずらをするところ。
- 3.字を書く事



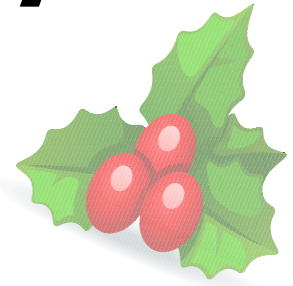
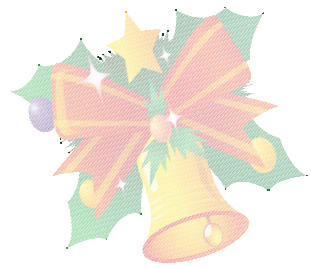
しょくひんせい かぶもん たにの ゆうと さん 食品製菓部門 谷野 裕悟 さん

もりかわ よしのり しょうかい
森川 佳紀 さんを紹介します！

- 1.大の仲良しだから。
- 2.すごくカッコいいところ。
- 3.バンド系の音楽。



ちいろばクリスマスコンサート ～ 2017 ～



クリスマスコンサートの日程が **12月9日(土)**
に決まりましたのでお知らせいたします。詳細は おって
ちいろばだよりやチラシ等で発表いたしますので
今年もどうぞご来園ください！！



ちいろば園の喫茶 café donkey では、

8月より駄菓子だ が しの販売を開始しました。

駄菓子だ が しは10円からご用意しております。

大人も子どもも楽しめるラインナップ！

ご家族で、お友だちと、おひとりで、..

どなたでもお気軽にお越しください♪

カフェ ドンキー
café donkey



☆後援会費・ちいろばだより年間購読料（2017年6月1日～2017年7月31日）

篠原範子(6.7)、窪田義廣、瓜生真唯、井戸上聡、太井律子、高谷三郎、筒井早苗、中園大三郎、中村康子、岡本啓子、後藤芳子、高倉常子、田中伸一・真紀子、新居サツキ、牧村スマ子、佐藤美雪、ト田啓三・昭子、永井雅子、松藤みどり、安部ひとみ、大西眞規子、木村和子、田中廣子、中野みち、五道知典、桜田義一、木ノ脇悦郎、備後直子、本圓喜代美、長尾良子、井原由夏、森川佳紀、原武史、吉田陽亮、藤本千絵、斉藤総一郎、吉岡佳菜、岩本咲人、黒川正通、濱野由利子、辰巳普宣、栗山典子、松長玲、松村敏康、松本敬子、高島努、小倉奈々、木下洋伸、舩井裕史、西岡務、橋本勝寿、石原慎也、梶原拓馬、谷野裕悟、新谷貴雄、平山恵理、吉岡由里子、山田援、坂本友希、前平正恭、辻清行、高見良平、阿波宏晃、吉村公嘉、中森未来、井本香菜、田中謙輔、米田守、和田泰子、西田久美子、梅野玲子、小川洋子、礒道香織、木村朋子、石川徹、藤原小百合、吉井紗英、富田忠一、梅田佐衣、竹下由里子、大谷龍樹、西村昭彦、村上智子、横山文吾、東岡慎也、西村周也、窪美代子、佐藤滋生、新宮由士、長田初恵、辰巳真奈美、岡本千秋、

以上 敬称は略させていただきます

◆ちいろばだより購読料納入のお願い◆

いつも、ちいろば会にご支援を賜りありがとうございます。

昨年、社会福祉法が改正になり会計ルールも大きく変更されました。そのことにより、これまでのちいろば献金は廃止し、「ちいろばだより購読料」のご協力をみなさまにお願いすることになりました。

現在、ちいろばだよりは、「関西障害者定期刊行物協会」に加盟して、低料第3種郵便物としてみなさまのお手元に郵送させていただいています。第3種郵便物の承認要件のひとつに、発行部数のうち、8割が発売されていることという条件があります。

今後も低料第3種郵便として多くのみなさまにお届けするために、年間購読料の納入にご協力をお願いします。

ちろばだより年間購読料 500円（隔月発行 送料込）

※ 今回、同封の郵便振替用紙にて、ご納入いただければ幸いです。

KSKS ちいろばだより

編集人／ ちいろば会後援会

年 6 回 頒価 50 円

連絡先／ 奈良県生駒郡三郷町勢野北5-6-14

TEL : 0745-72-1923 FAX : 0745-31-5760

発行人／ 関西障害者定期刊行物協会

大阪市天王寺区真田山町2-2 東興ビル4F